

発達障害について（第五回：最終回）

～学習障害他、相談窓口や医療、ニューロダイバーシティ～

学力の特異的発達障害

(学習障害、局限性学習症：LD)

- 知的には標準またはそれ以上
- 聞く、話す、読む、書く、計算する、推論することの力にばらつきがある。
- 注意集中や落ち着きがない場合もある。また、不器用な場合もある。

【ディスレクシア（識字障害）】

文字を読む、読んで理解することが困難。困難さは個々で異なる。（字の区別、文を目で追って読むこと、読んでから理解までに時間がかかるなど）

吃音（きつおん）

- 単音、音節、単語を頻繁に繰り返したり、長く伸ばす話し方

（「き、き、き、き、き、き、きょうは」「ぼ—————くは」）

- 話のリズミカルな流れをさえぎる、頻繁な口ごもりや休止による話し方（「…ぼくは」）

これらの話し方で話の流暢さを著しく阻害する程度

- 2～7歳に発症する人が多い（7～8割は自然治癒、8歳以上になると自然治癒が難しくなる）

チック、トウレット症候群

不随意的、急速で反復的、比率動的な運動や発生で、突発的で明確な目的がないもの

● 運動性チック

目をパチパチさせる、顔をしかめる、肩をすくめるなど

● 音声チック

咳払い、鼻を鳴らす、奇声を発する

● トウレット症候群

多発性の運動チックと単発性か多発性の音声チックがあるもの
どちらか、あるいは両方が1年以上にわたって続く

相談窓口・医療

- [発達障害に関する市町村相談窓口](#)
- [新潟県発達障害者支援センター](#)
- [発達障害者の診療等を行っている医療機関](#)

A glowing blue brain is shown inside a human head silhouette, which is also glowing blue. The brain is highly detailed, showing its complex, folded surface. The word "Neurodiversity" is written in white, bold, sans-serif font across the center of the brain. The background is black, making the glowing blue elements stand out.

Neurodiversity

ニューロダイバーシティ (Neurodiversity、神経多様性)

- **Neuro** (脳・神経) と **Diversity** (多様性) という2つの言葉が組み合わされて生まれた、「脳や神経、それに由来する個人レベルでの様々な特性の違いを多様性と捉えて相互に尊重し、それらの違いを社会の中で活かしていこう」という考え方であり、特に、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害といった発達障害において生じる現象を、能力の欠如や優劣ではなく、『人間のゲノムの自然で正常な変異』として捉える概念。

ニューロ

ダイバー

多様性尊重社会へのキーワード

シティの

教科書

村中直人
[著]

脳・神経 **neuro** と 多様性 **diversity**

この2つの言葉から生まれたニューロダイバーシティは、「脳や神経、それに由来する個人レベルでの様々な特性の違いを多様性と捉えて相互に尊重し、それらの違いを社会の中で活かしていこう」という考え方で、

発達障害と呼ばれる状態を、能力の欠けや優劣とは異なる特性、豊かで捉えなおす言葉であり、さらには「すべての人の脳や神経の働き方」がその対象となる動物の広さを持った言葉でもあります。

金子書房